

製品名: Dok-7 ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab10111

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	60kDa

抗原情報

遺伝子名	DOK7
別名	DOK7; C4orf25; Protein Dok-7; Downstream of tyrosine kinase 7
遺伝子 ID	285489.0
SwissProt ID	Q18PE1
免疫原	抗血清はヒト DOK7 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 10-59

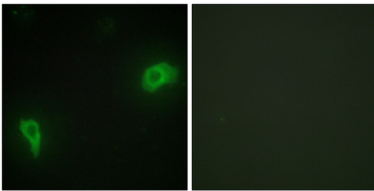
背景

ドッキングタンパク質 7 (DOK7) ホモサピエンスこの遺伝子によってコードされるタンパク質は、神経筋シナプス形成に必須である。このタンパク質は、シナプス後分化に必要な筋特異的受容体キナーゼの神経活性化、およびそれに続く筋管におけるアセチルコ

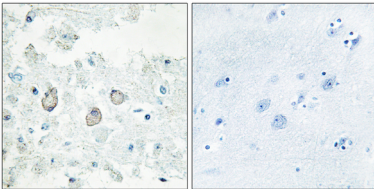
リン受容体のクラスター形成に機能する。このタンパク質は、筋特異的受容体キナーゼの自己リン酸化も誘導することができる。この遺伝子の変異は、先天性筋無力症候群 1B 型としても知られる家族性肢帯筋無力症常染色体劣性の原因である。選択的スプライシングにより、複数の転写バリエーションが生じる。[RefSeq 提供、2009 年 9 月]、疾患: DOK7 の欠陥は、家族性肢帯筋無力症常染色体劣性 (LGM) [MIM: 254300]の原因である。先天性筋無力症候群 1B 型または CMS1B とも呼ばれる。LGM は、典型的な「肢帯状」筋力低下を特徴とする先天性筋無力症候群であり、神経筋接合部は小さく単純化されているものの、アセチルコリン受容体およびアセチルコリンエステラーゼの機能は正常である。機能: 神経筋シナプス形成に重要な役割を果たす MUSK の筋内活性化因子と考えられる。MUSK の神経活性化と、それに続く筋管におけるアセチルコリン受容体 (AchR) のクラスター形成に作用する。MUSK の自己リン酸化を誘導します。類似性: IRS 型 PTB ドメインを 1 つ含みます。類似性: PH ドメインを 1 つ含みます。細胞内局在: 神経筋接合部に蓄積します。サブユニット: MUSK の細胞質部分と相互作用します。組織特異性: 骨格筋と心臓に優先的に発現します。大腿筋、横隔膜、心臓に存在しますが、肝臓や脾臓には存在しません (タンパク質レベル)。

研究分野

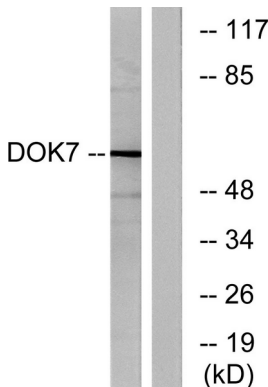
画像データ



DOK7 抗体を用いた HepG2 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした画像です。



DOK7 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした画像。



DOK7 抗体を用いたマウス脳ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロックされている。